

まちはいろんな人でできている
私のまちで東京ストリートカウント 2025 夏
活動報告



ARCH
through Community Design

◆はじめに

ARCHは2025年8月29日/30日の深夜、「まちはいろんな人でできている私のまちで東京ストリートカウント2025夏」を実施しました。本企画は多くの市民が同じ夜に、それぞれの暮らすまちを歩いて、屋外で過ごす人を探す市民参加型の夜間路上調査です。今回は「わたしのまち」を歩き、ひっそりとそこにいる「いろんな人」の存在に気付き、考えることで、「わたしのまち」の知らなかった姿を探しにいくことを目的としています。報告会では、夏の夜のまちにいるいろんな人の存在を確かめにいき、それぞれの記録や感じた想いを参加者間で共有し、まちを見守るまなざしを共有しました。

蒸し暑い夏の終わりに行った今回の調査の実施概要、調査結果、参加者の感想、報告会の内容についてご報告します。

目次

- ◆開催概要
- ◆当日の流れ
- ◆主な調査結果
 - ◆参加者層
 - ◆参加者の感想
 - ◆報告会の内容
 - ◆今後に向けて

◆開催概要

| | | |
|------------------|---|------------|
| 日時 | 8月29日（金）深夜 | 8月30日（土）深夜 |
| 場所 | 各参加者の「わたしのまち」（自宅のある地元駅周辺、近隣の公園など） | |
| 天気 | 晴れ | くもり |
| 気温 | 30°C（東京都） | 30°C（東京都） |
| 参加者数 | 51 | 42 |
| 見守った 「わたしのまち」 | 53 | |
| 出会った人 調査したもの | 「野宿している人」「確かに野宿している人がいる」と思われる人」「それ以外で心配な状態にある人」「野宿している人のものと思われるテントや小屋、荷物」 | |

1日目、2日目ともに、蒸し暑く汗ばむ夜となりました。一日目51名、二日目42名、合計93名の参加者がそれぞれの「わたしのまち」を見守りました。

参加者みなで見守った「わたしのまち」は合計で53となりました。まちにいるいろんな人を探しに行き、「野宿している人」「今晚行き場がなくここにいると思われる人」「それ以外で心配な状態にある人」との出会いを記録しました。

◆当日の流れ



【図】当日の流れ

当日は 22:30 から zoom で出発式を行い、他の参加者と共に注意事項を共有し、その日の夜一緒に歩く仲間の様子を確認しました。23:00 以降に各自で調査を開始し、参加者はそれぞれの「わたしのまち」を 1~2 時間程度歩き、出会った人や置かれている荷物の記録を行いました。帰宅後、見守った記録（歩いたルート、出会った人・記録したモノ、感想）を本部へ送信し、他の参加者とお互いの感想をオンラインで共有しました。

◆主な調査結果

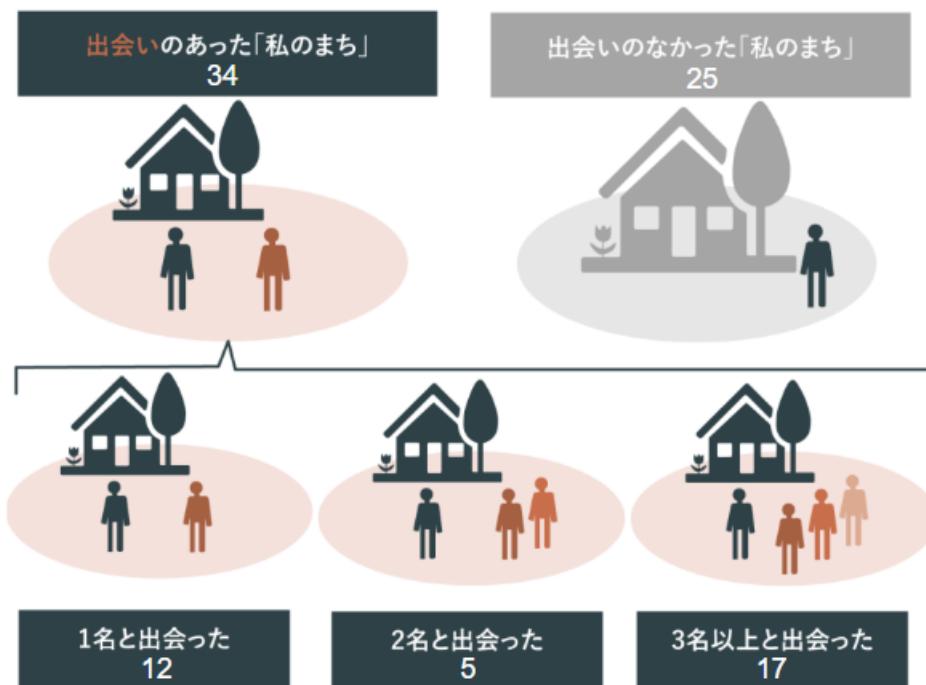
○まちごとの結果

参加者延べ93名で見守った「私のまち」は59ありました。見守った59の「私のまち」のうち半数以上の34のまちで何らかの心配な状態にある人との出会いがありました。出会いのあった私の街の割合を過去2回の開催から比較すると、前々回、前回が半数弱であったことから、少し増えたことが分かります。



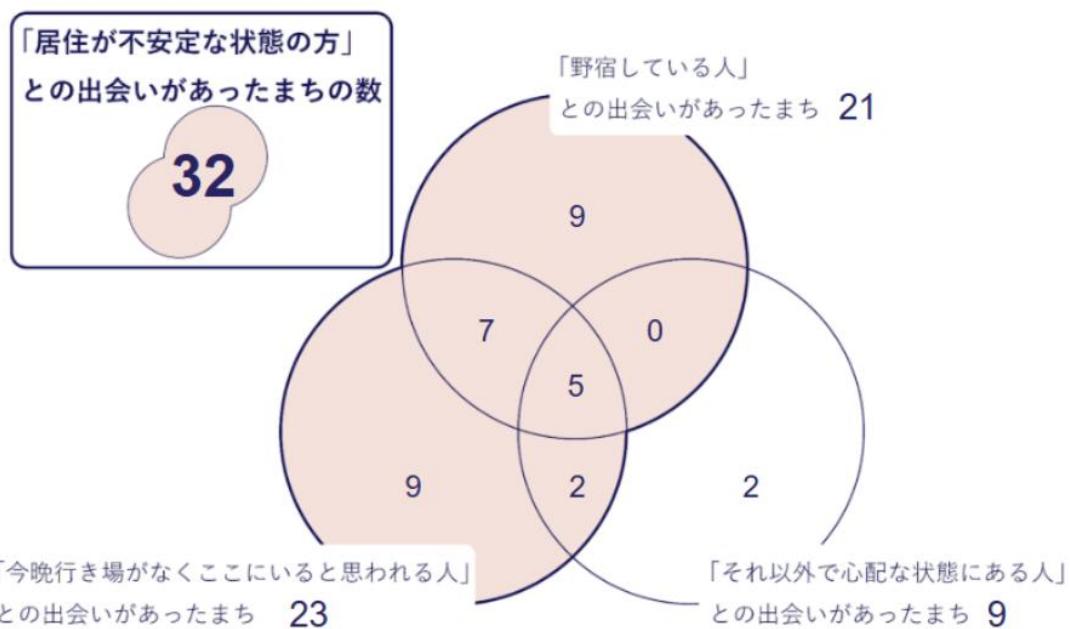
【図】出会いのあったまち・なかったまちの数

出会いがあった59のまちにおける出会った人の人数をみると、1名だけと出会ったまちが12、2名と出会ったまちが5、3名以上と出会ったまちが17となりました。



【図】出会い系があったまちの数（出会った人数別）

次に、どのような状態の人に出会ったのかをみると、「野宿している人」との出会いがあったまちは 21、「確かにないが今晚行き場がなくここにいると思われる人」との出会いがあったまちは 23、上記のいずれかの人にお会ったまちは 32 でした。「野宿している人」あるいは「確かにないが今晚行き場がなくここにいると思われる人」は、少なくともその晩は屋外での不安定な居住状態（広義のホームレス状態）にある人であり、参加者が見守った 59 のまちのうち、半数以上の街でこうした居住が不安定な方とお会ったことになります。



【図】出会いのあったまちの数（状態別）

○全体としての結果

私のまちで東京ストリートカウント 2025 夏 結果 / 参加状況

| | | | |
|----------|------|----------------------------|------------------|
| 結果 全国 | 153名 | 野宿している人 66名 | 参加者 93名 |
| | | 今晚行き場がなくここにいると思われる人 62名 | |
| | | 上記以外で心配な状態にある 25名 | 見守った「私のまち」 59 |

凡例
 参加者の歩いたルート
 人を記録した場所
 または
 テントや荷物の
 あった場所

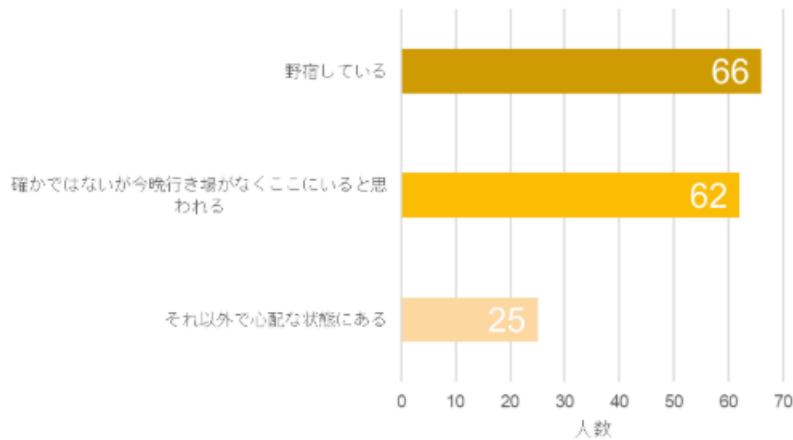


【図】調査結果まとめ（参加者の歩いたルートと出会いのあった場所）

上図及び表は調査結果をまとめたものです。

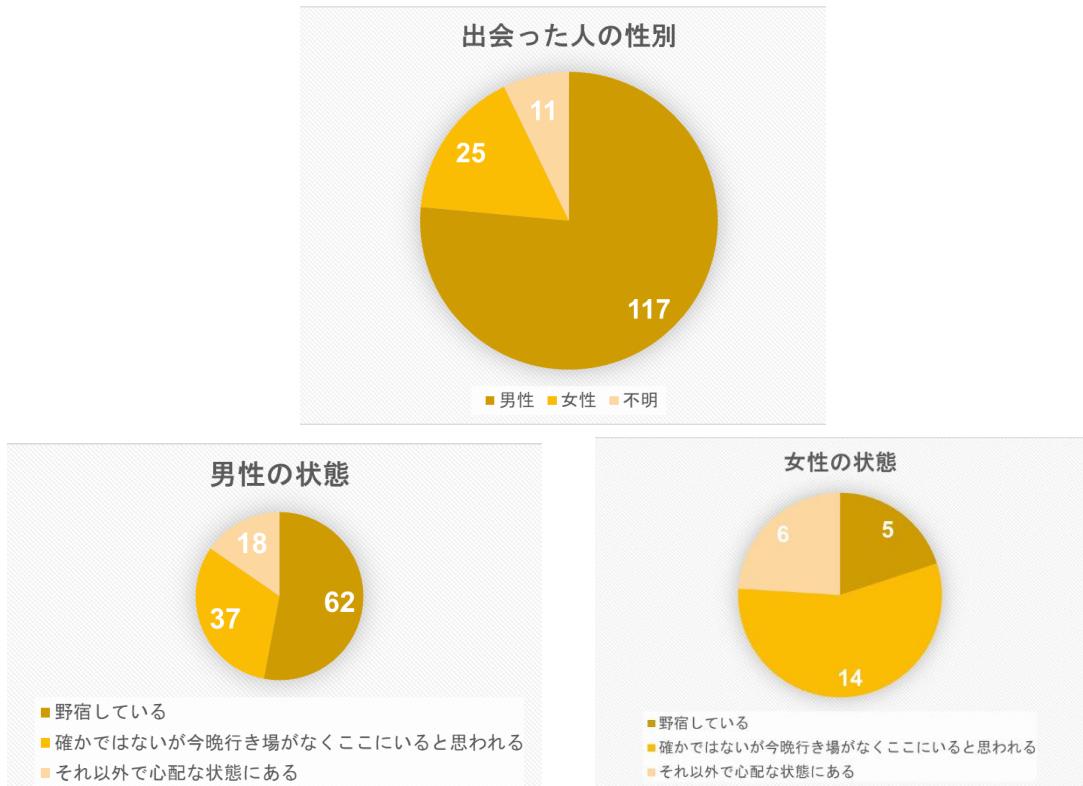
「私のまちで東京ストリートカウント 2025 夏」では合計で 153 名の心配な状態にある人の出会いがありました。その中で、「野宿している人」が 66 名、自転車のそばで大きな荷物を持っている人やベンチに座り込んでお話をする「確かにないが今晚行き場がなくここにいると思われる人」が 62 名確認されました。合計で 128 名の人々が、少なくともその晩は屋外での不安な居住状態にあることが確認されました。その他にも、夜中の歩道をお酒に酔った状態で歩いている人など、参加者が歩いている中で気になった「それ以外に心配な状態にある人」が 25 名確認されました。夏の夜は蒸し暑く過ごしにくい気温であるにもかかわらず、屋外で夜を過ごさざるを得ない人が多くいることが分かりました。

【表】出会った人の人数（状態別）



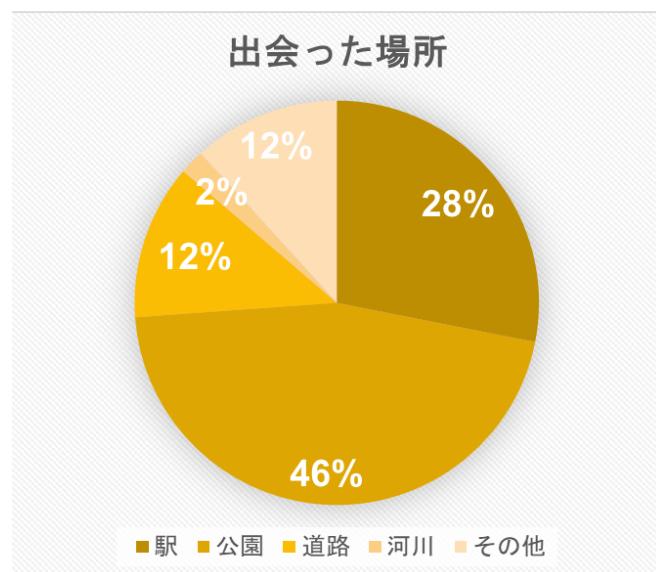
出会った人の性別では男性が 117 名、女性が 25 名と男性の方が 4 倍近く多い結果となりました。また、男性で「野宿している人」は 62 名、「確かにではないが今晚行き場がなくここにいると 思われる人」は 37 名、「それ以外で心配な状態にある人」 18 名と、「野宿している人」が半数を超える結果となりました。

一方で女性で「野宿している人」は 5 名で、「確かにではないが今晚行き場がなくここにいると 思われる人」は 14 名、「それ以外で心配な状態にある人」は 6 名でした。女性は男性に比べると「野宿している人」の割合が少なく、「確かにではないが今晚行き場がなくここにいると 思われる人」の割合が高い結果となりました。



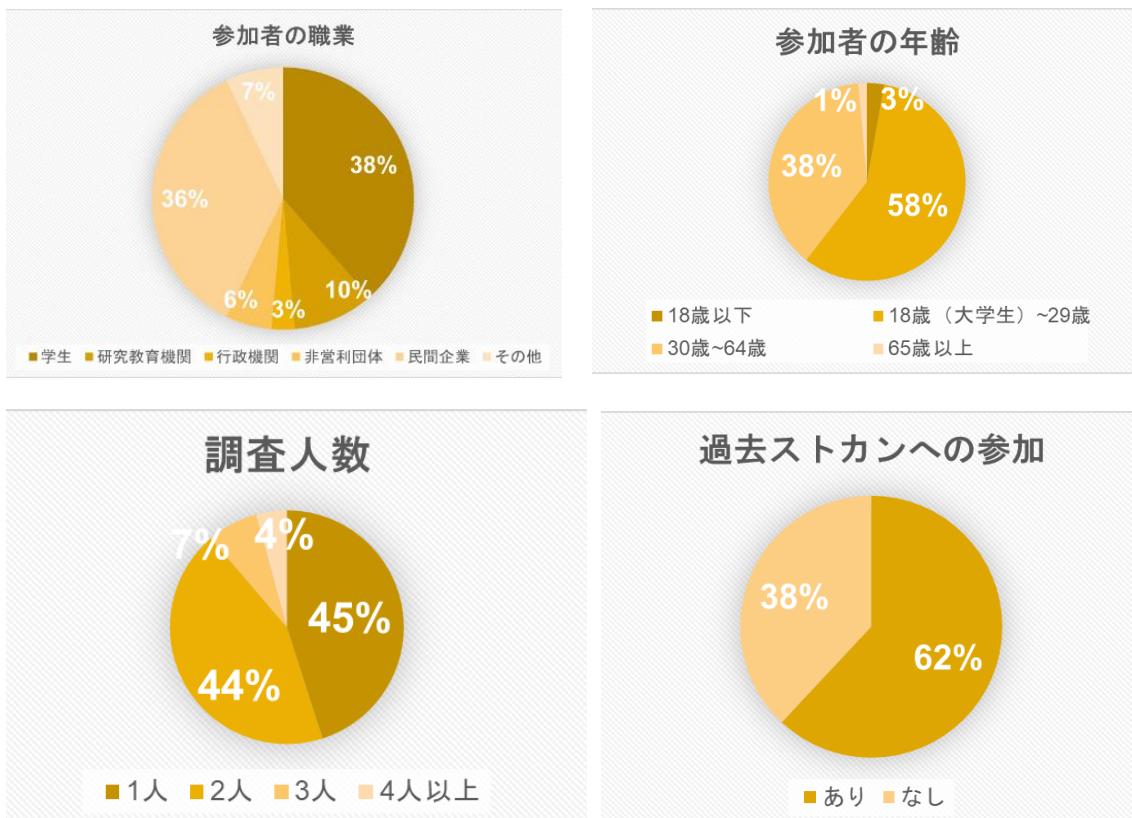
【図】出会い系の性別ごとの人数、性別ごとの出会い系の状態

出会った場所では公園が最も多く 46%、次いで駅が 28%、道路が 12%、河川が 2%、その他が 12%という結果になりました。参加者の歩いたルートによって変化しますが、前回より公園の割合が高くなりました。



◆参加者層

参加者の職業としては、学生が最も多く38%、次いで民間企業の方が36%でした。学生が多いこともあり、年齢も18~29歳の方が58%を占めました。30~64歳の方の割合が昨年より約10%ほど上がりました。



【図】参加者の属性

調査を実施した人数に関しては、同伴者を伴わず1人で歩いた方が45%、次いで2人で歩いた方が44%でした。前回と比較して複数名で歩かれた方が多かったことから、暑い夏の夜にもかかわらず知り合いの方をお誘いいただき、一緒に歩いてくださったことがわかります。

また、今回の私のまちストリートカウントでは過去に参加したことのない参加者が38%であり、新規の参加者は去年より10%ほど増えました。我々は本企画をきっかけに少しでも多くの方が「私のまち」に関心をもち、日常的にまちを見守るようになるには、新規の参加者を募ることが重要であると考えているため、新規の方の増加は良い傾向だととらえています。

◆参加者の感想

| | | | |
|------------------------|---------------------|------------------|--------------|
| 出会った人の様子やその人達への考察 (52) | 野宿者の様子 | 居場所への考察 (12) | 滞在するのに適した場所 |
| | まちの人の夜の過ごし方 | | 再開発による居場所の減少 |
| | 様々な属性・行動の人 | 私のまちの新たな気づき (13) | 昼のまちとは違う夜のまち |
| | 私のまちと都心の違い | | 出会った人への気づき |
| 私のまちの様子やそれに対する考察 (41) | まちの変化 | 夏の気候と自然 (19) | 夏の暑さと野宿者への心配 |
| | 場所によって変わる景色 | | 冬との比較 |
| | まちの明るさ | | 暑さを和らげる自然 |
| 歩いているときの会話や心情 (17) | 普段とは違う視点 | 調査場所 (16) | 自然の音 |
| | 野宿者への意識 | | |
| | まちはいろんな人でできているという意識 | その他 | |
| | 夜のまちの怖さ | | |

今回の私のまちストカンでは、59人の参加者が感想を共有してくださいました。その感想を項目ごとに分け、分析した結果、大きく7つに分類することができました。

今回は「まちはいろんな人でできている」というタイトルだったことから、野宿者の様子以外にも、自分のまちにいた人や自分のまちの様子についての感想が多くみられました。そこから続いて、自分のまちやそこにいる人への考察、自分のまちへの新たな気づきに繋がる感想も多くみられました。

また、両日とも猛暑の中のストカンだったことから厳しい夏の暑さについての感想や夏ならではの自然について多くの感想がありました。加えて、普段とは違う視点で街を回ることができたという感想や夜のまちの怖さについての感想等、歩いているときの心情や野宿者の居場所の考察についての感想も見られました。

以下、感想の一部を紹介します。

【出会った人の様子やその人達への考察】

●野宿者の様子

- ・今回出会った方は、暑い中、仕事着のような長袖シャツに長袖ズボン、革靴のような靴を履き、アスファルトの地面にそのまま寝ておられて、心配になりました。

●様々な属性、行動の人

- ・若者の集団や始発まで寝ずに待とうとしている様子の人、その他にも用事は無いがここにいるという雰囲気の人など、様々な属性の人が居た。

【私のまちの様子やそれに対する考察】

●まちの変化

- ・前回の頃はまだ整備されていなかった緑道を歩いてみたところ、初めて見かける人が往来に背を向けて大きなリュックサックを抱えて寝っていた。キレイめな場所ではあるが警備員などもなく排除のない空間が新しくまちの中にできていたのかもしれない。今後この場所がどうなるかも含めて注目してみたい。

●場所によって変わる景色

- ・住宅街であるいつもの道では一人でお酒を飲んだりタバコを吸ったりと一人の活動者が多かったですが、駅前を通る大通りを歩いた今回はスケボーをしたりむろをする少年の姿など街が色を変え異なるコミュニティの受け皿になっていることを実感した。

●まちの明るさ

- ・どの公園も街灯やトイレ照明が整備され、暗さによる不安は少なく管理者の配慮を感じた。

【私のまちの新たな気づき】

●昼のまちとは違う夜のまち

- ・小さい時に遊んでいた記憶がある公園を選んだため懐かしく感じたと同時に、同じ場所でも夜になるとこんなに暗くなり、公園を利用する人も小さい子どもから若者や外国人の集団、寝場所として利用する人などに変化することを自分の目で確認することができ、「まちはいろんな人でできている」を実感できた。

●出会った人への気づき

- ・思っていた以上に、ホームレスの方が多かった。以前と比べて、女性が半数と多かったのも意外だった。

【居場所への考察】

●滞在するのに適した場所

- ・今回出会った人々はいずれも公園内の薄暗い部分に滞在しており、利用者（自分）が安心する場所と滞在者が落ち着く場所の間に差があるような気がした。

【歩いているときの会話や心情】

●普段とは違う視点

- ・居そうな場所や居ないかという視点で街を歩くことが新鮮だった。
- ・母と一緒に歩いたが、道中いろいろな話をした。朝4時くらいに出勤すると家の近くの公園で新聞を読んでいる人がいること、どんな活動があれば共存できそうなのかについてが多く、普段あまり話題にはならないことだったので新鮮だった。

●まちはいろんな人でできているという意識

- ・「まちはいろんな人でできている」ということを意識しながら歩きましたが、公園で休むHLのおじさん、バイクに乗った若者の集団や、ジョギングしている人、道路でスケボをしている若者、本当にいろんな方が私と同じまちで暮らしているんだということを改めて実感しました。

●夜のまちの怖さ

- ・自分ともう一人の友人は少し寂しさや怖さを感じ、「もし一人だったら夜に外を歩きたくない」と思いましたが、もう一人の友人は逆に「まちは安全だ」と感じていました。

【夏の気候と自然】

●夏の暑さと野宿者への心配

- ・気温は27度。少し動くと衣類が汗でぐっしょりです。おじさんたちの健康が心配です。
- ・家の中でも寝苦しいわけで、ストリートでは暑くて眠ることは出来ないかと感じました。

●暑さを和らげる自然

- ・東京都内は気温がとても高かったが、歩いた場所には木々や植物、土、芝生があり気温が数度低かった。

●自然の音

- ・夏の蒸し暑さを感じながら夜のまちを歩き、まちが静かだからこそ、虫の声や草葉のゆれなど自然の音に耳を澄ますことができ、一緒に歩いた人ともそのような話をした。

◆報告会の内容

2025年10月4日（土）に私のまちで東京ストリートカウント2025夏」結果報告会＆交流会を開催いたしました。現地会場（東京科学大学）では14名、オンラインでは9名の方にご参加いただきました。

第1部では速報値のご報告に加え、今回で5回目となる「私のまちストカン」のこれまでを振り返りました。また、当日の街の様子や出会った方々についても共有し、皆さんそれぞれの体験を通じて見えてきた景色を感じ取ることができました。オンライン上の感想フォームでは伝わりきらない、生の声を伺えたことがとても貴重でした。

第2部の意見交換会では、今回のテーマについて参加者・運営者双方の立場から考えたことについて、またストリートカウントにかかわる人としてできることについて活発な意見が交わされました。今後の「私のまちストカン」の方向性を考えるうえで、大切な示唆や提案を多数いただきました。

2025夏私のまちストカン意見交換会 10月4日（土）

①今回のテーマについて様々な立場から考えたこと

参加者として歩いてみて考えたこと

過去二回参加したうえで、見守ることが大事だと感じていた
今回の「まちはいろんなひとでできている」というテーマのように、夜のまちは外国人の人ばかりで、ギターを弾いている人がいたりと、いろんな人がいたことが印象的だった

夜のまちの風景、要素が含まれていて面白い。夜にこだわる理由はなぜなのか
もともと東京の夜の実態を把握するための活動であった。調べることで夜のまちの姿を知ることができるようにになった。

今まで見守る意識の視点が大きかった
今はまちがどんな人でできているのか。「自分とは違う行動をする人を見る」という視点で歩いた

運営として考えたこと

社会情勢的に、相手のことを知ろうとせずに排除してしまう状況があった
社会情勢に対する見守りは難しいという思いを今回のテーマに込めた

見守るから一步を踏み出しこそを強調はしたくない
葛藤

これまでのARCHの活動を見てきて考えたこと

東京都へのカウンターパートから「自分」でひきつけて「私のまち」になった
ホームレスという独立した問題があるわけではない

私のまちストカンになってから歩み抜けたうえでの今回のテーマ設定だと感じた。
「自分」とホームレス問題を絡めて、考える・生み出すことの貴重さ

②ストカンに関わる人としてできることについて

参加したきっかけから考えたこと

寮に住んでいるため夜に普段は出歩かないが、夏休みで一緒に歩いてくれる友人がいるという条件が働いたので参加した。
現在、都市計画の研究室に所属しており、新しい視点や学びを知りたかったから参加した。

今は方向性が見えていないかもしれないが、未来のまちを想像するために活動を続けていくことは大切

ホームレス支援者とARCHを比べて考えたこと

ARCHの今までの活動では声掛けはしていない

ARCHの活動はホームレスの方の夜の状況を見ているが、正確な数を把握することは難しい。

ホームレス支援を行なう北都バトロールは、「支援」のためホームレスの方への声掛けを行う

普段HL支援をしているが、支援者は夜に回ることができるない ARCHの活動は貴重である。

多くの支援団体では、巡回相談で声掛け等を行う。ARCHは声掛けはしないけれど、相手をよく観察して、考えるという独自の強みがある。

野宿者の側から見たまちや他人という視点も必要

より良いまちを考えることはまわりまわって自分のためになる

日常の中で考えたこと

近くを通る機会に、ホームレスの方が危険な状態にならっていないか等を確認

そこに現っていても大丈夫という姿勢を見せる、まちの一員として認める

まちからの視点から考えたこと

まちのことを考えている人が少し気づいてくれるだけでまちが変わる

まちを見てみると、いろいろな人が優しいをもって手を差し伸べている

優しい人同盟のような、私のまちの中で、まちのために活動するネットワークが作れたら良いのでは

地域を見守ることを実現したいが、地域の一人一人は何ができるのだろうか

【例】■:これまで・現在の状況や考え方 ■:これからの活動や考え

【図】意見交換会の内容

◆今後に向けて

ARCH は 2021 年から「私のまちで東京ストリートカウント」の実施を開始し、今回は 5 回目という節目の開催となりました。

今回、「まちはいろんな人でできている」というテーマを設定した背景には、現代において、ますます排外主義や個人主義が強まっている社会情勢に対する危機感がありました。自分とは違う人や交わらない世界にいる人との関わりがどんどんと薄れていき、その人達を敵対視してしまうような社会になってきているのではないかと感じています。ますます分断が進む世界の中で、今回の私のまちストカンには、私のまちにいるいろんな人を探しに行き、自ら見て、考えて、思いを馳せてほしいという想いがありました。私のまちであったとしても、どんな人がいるか知らないことが増えている今、自らまちを歩き、知らない姿を見て、考えるという行為そのものが今の社会には重要なのだと思います。

このようなテーマは社会問題と絡んでいてとても壮大で、一見すると私が私のまちを歩くというささやかな行為となかなか結び付きにくく感じるかもしれません。

しかし、個人ひとりひとりが違う人を見て見ぬふりをして、個を強めてきた結果がこのような個人主義的な社会を生んでいるのです。個人によって社会は変わっていくからこそ、社会という大きなスケールであっても、社会を変えていくためには、個人の小さなスケールのアクションの積み重ねが大切なのです。そんな社会を変える小さな第一歩として、私のまちストカンは大きな意味を持つと、ARCH は考えています。だからこそ、参加者の皆様にはこれからもまちを見守るまなざしを持ち続けていってほしいと考えています。

私のまちストカンが社会にもたらす意義を考え続けていくと共に、今後 ARCH が目指す、一人でも多くの人がまちを見守るまなざしを持つやさしい都市を実現するためにはどのような活動を行っていくことが必要なのか、活動の形や ARCH の在り方についても考えて統けていきます。

「まちはいろんなひとでできている
私のまちで東京ストリートカウント 2025 夏」

活動報告書

〈発行日〉 2025 年 11 月

〈制作〉 ARCH (Advocacy and Research Centre for Homelessness)

〈連絡先〉 arch.cd.office@gmail.com

〈郵便送付先〉 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京科学大学 環境社会理工学院 土肥研究室 気付

〈リンク〉 ARCH ウェブサイト : <http://www.archomelessness.org>